

2021 年度 研修開催報告

教育の質保証を実現するために、大学教員の職能開発（FD）の更なる実質化・高度化が求められています。ここでは、東京都立大学 FD 委員会主催による、本学の教育理念の共有と着任後の円滑なコミュニケーションを図るための新任教員 FD 研修、アクティブ・ラーニングの具体的な手法や実践例等を共有するための教育力向上 FD セミナー、TA の役割に関する理解のほか教育補助者としての技術向上や情報収集を目的とした TA 研修・スキルアップセッションの開催結果について報告します。

＜新任教員 FD 研修＞

2021 年 4 月 5 日（月） 14:00～17:25 及び 2021 年 10 月 8 日（金） 14:00～17:25

1. 趣旨

この研修は、新任教員を対象に着任後の円滑な教育・研究活動へと導くために開催している。研修の目的は以下のとおりである。

- 東京都立大学のカリキュラムの特色や教育方針等を理解する。
- 授業デザイン・実践のための基礎知識・スキルを習得する。
- 同僚とのコミュニケーションを図り、着任後の円滑な教育・研究活動につなげる。

また、本研修は二部形式で実施し、第二部については教育力向上 FD セミナーとして同時開催し、新任教員だけではなく一般の教員の参加も可能とした。

2. 概要

〔第 1 回 開催日時・場所・参加人数〕

2021 年 4 月 5 日（月） Zoom による開催

新任教員研修の参加人数：14 名

教育力向上 FD セミナーの参加人数：24 名

〔主なプログラム〕

【第一部】

- 東京都立大学の概要と本学の教育が目指す方向性
（大学教育センター長 横田 佳之）
- 東京都立大学の FD・教学 IR 活動の紹介について
（大学教育センター 近藤 伸彦 准教授）
- eラーニングシステム kibaco の紹介について
（大学教育センター 岡田 有司 准教授）

【第二部】

- 「新しい対面授業」に向けた授業のデザインを考える
（大学教育センター 近藤 伸彦 准教授）

〔第 2 回 開催日時・実施方法・参加人数〕

2021 年 10 月 8 日（金） 対面及び Zoom による開催

新任教員研修の参加人数：6 名

教育力向上 FD セミナーの参加人数：39 名

〔主なプログラム〕

【第一部】

- 東京都立大学の概要と本学の教育が目指す方向性
（大学教育センター長 横田 佳之）
- 東京都立大学の FD・教学 IR 活動の紹介について
（大学教育センター 近藤 伸彦 准教授）
- eラーニングシステム kibaco の紹介について
（大学教育センター 岡田 有司 准教授）
- 多様性のある学生と共に学ぶための配慮や対応について
（ダイバーシティ推進室 藤山 新 特任研究員、
益子 徹 特任研究員）

【第二部】

- ポストコロナを見据えた「新しい対面授業」を実現するには
 - ・東京都立大学が目指す「新しい対面授業」とは
（大学教育センター長 横田 佳之）
 - ・模擬授業・質疑応答
（経済経営学部 山下 英明 教授）
 - ・模擬授業・質疑応答
（理学部 福田 公子 准教授）
 - ・Turnitin Feedback Studio の紹介、事務連絡
（教務課教務企画係）

＜東京都立大学 教育力向上FDセミナー＞

2021年4月5日(月) 15:50～17:25、2021年10月5日(金) 15:50～17:25

1. 趣旨

2017年度から2019年度までは教育改革推進事業(学長指定課題)の取組みとして、大学教育センターとFD委員会の共催でアクティブ・ラーニングの具体的な手法や授業設計、実践例等を共有するための少人数によるワークショップ形式のセミナーを開催してきた。

2020年度からは上記セミナーの後継として、FD委員会の主催で、継続的にアクティブ・ラーニング等を推進するための教育力向上FDセミナーを実施している。

2. 概要

〔第1回〕(参加者24名)

2021年4月5日(月) Zoomによるオンライン開催
 テーマ:「新しい対面授業」に向けた授業のデザインを考える

講師:大学教育センター 近藤 伸彦 准教授

本学が推進する「新しい対面授業」に向けた授業のデザインに主眼をおいた。インストラクショナルデザインの考え方に基づき、授業の目標・内容・評価を統一的にとらえ、効果的で魅力的な授業を設計するための基礎知識を解説した。また、対面授業でも活用できるオンライン技術によるアクティブな学習活動の事例紹介などを行った。

| 本日の目標 | |
|----------|--|
| ◆ 本日の目標 | <ul style="list-style-type: none"> 「新しい対面授業」の方針を念頭に、インストラクショナルデザインの基礎をおさえて自身の授業の分析・設計・開発ができるようになる 感染対策をしながらできる「新しい対面授業」に向けて、ICTを活用した授業の工夫について知り、自身の授業設計を鑑みつつ、これを取り入れることを具体的に検討できるようになる |
| ◆ 本日の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的に講演形式(ブレイクアウトなどはありません) 授業でのICTの活用例を実際に試しながら、ご自身の授業について考えていただく時間をとりつつ、ゆるやかな参加型で進めたいと思います 質問はチャットにいつでもお書きいただいても構いません |

05 Apr 2021 都立大教育力向上FDセミナー 4

〔参加者へのアンケート結果抜粋/5段階評価〕

| 項目 | とてもそう思う (評価:5) | どちらかといえそう思う (評価:4) | どちらともいえない (評価:3) | どちらかといえそう思わない (評価:2) | 全くそうは思わない (評価:1) | 評価 平均値 |
|---|-------------------|-----------------------|---------------------|-------------------------|---------------------|-----------|
| セミナー全体の長さは 適当であった | 4 | 9 | 2 | 1 | 0 | 4.00 |
| 期待していたとおりの 内容であった | 4 | 9 | 2 | 1 | 0 | 4.00 |
| セミナーの内容は、授業 改善に繋がるもので したか(教員のみ回答) | 7 | 6 | 2 | 1 | 0 | 4.19 |

〔第2回〕(参加者39名)

2021年10月8日(金) 対面及びZoomにて開催

テーマ:ポストコロナを見据えた「新しい対面授業」を実現するには

講師:経済経営学部 山下 英明 教授、理学部 福田 公子 准教授

第1回に引き続き「新しい対面授業」をテーマとしたが、「新しい対面授業」が始まって間もないこともあり、多くの教員が手探りの状態であると考えられたことから、より実践的にTipsを交えた模擬授業(事例紹介)を体験するセミナーとした。

なお、模擬授業(事例紹介)の内容については、次頁以降に紹介する。

〔参加者へのアンケート結果抜粋/4段階評価〕

| 項目 | とてもそう思う (評価:4) | どちらかといえそう思う (評価:3) | どちらかといえそう思わない (評価:2) | 全くそうは思わない (評価:1) | 評価 平均値 |
|---|-------------------|-----------------------|-------------------------|---------------------|-----------|
| セミナー全体の長さは適当 であった | 12 | 13 | 2 | 0 | 3.37 |
| 期待していたとおりの内容 であった | 12 | 12 | 3 | 0 | 3.33 |
| セミナーの内容は、授業改善 に繋がるものでしたか (教員のみ回答) | 9 | 12 | 2 | 0 | 3.30 |

なお、教員力向上FDセミナーは、第1回、第2回ともに新任教員FD研修の第二部として開催している。

< TA 初任者研修 >

2021年4月15日（木）16:30～17:30

1. 趣旨

東京都立大学では、2015年度にTA（ティーチング・アシスタント）制度の改正及び拡充を図り、TAとして教育に携わる大学院生の増加を目指している。また、毎年、初めてTAとなる大学院生に向けて、TAの役割や心得を教授し、その効果的な活用を図っている。

2. 概要

〔開催日時・実施方法・参加人数〕

- ・日時 2021年4月15日（木）16:30～17:30
- ・実施方法 Zoomによるオンライン開催
- ・参加人数 102名

〔プログラム〕

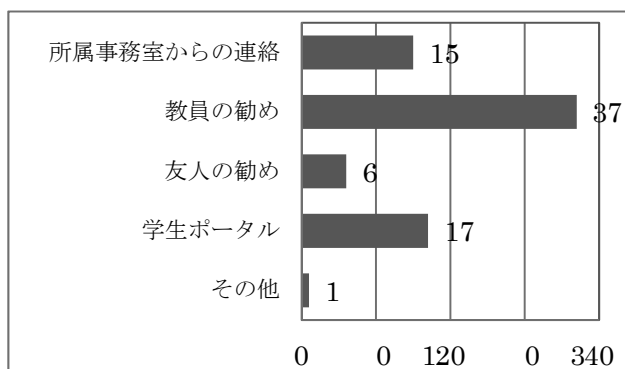
- (1) TAの役割と心得
(大学教育センター 岡田 有司 准教授)
- (2) 学生の理解と対応
(大学教育センター 岡田 有司 准教授)
- (3) 事務手続きについて
(教務課教務企画係)

3. 研修の満足度

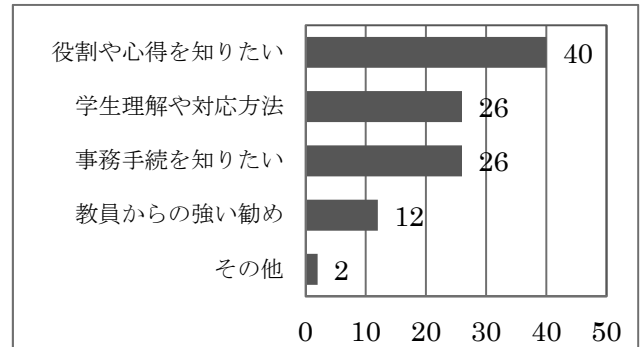
参加者102名のうち64名からアンケートの回答を得た。研修を通じて心得や役割について理解を深めることができたと感じている参加者が90%を占めた。

4. 参加者へのアンケート結果抜粋

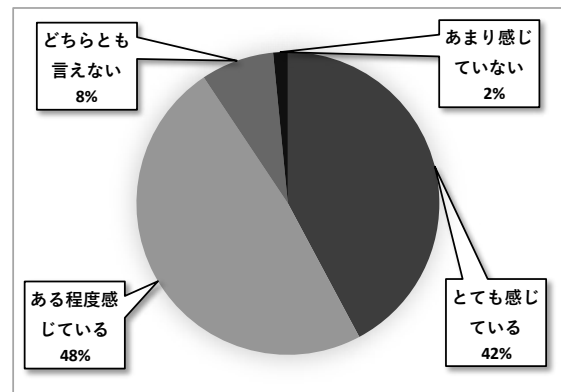
○研修をどのように知ったか



○参加のきっかけ



○心得や役割について理解を深めることができたと感じているか



5. 参加者の感想（一部抜粋・要約）

- ・TAとしての立ち振る舞いが知れた。
- ・学生対応の例が挙げられていたため、イメージしやすい。
- ・手続きについて知ることができた。
- ・具体的なTAの業務内容のイメージがつかめた。
- ・TAに対する教員の方々の声をもっと聞きたい。
- ・TAの学生への対応例を実際に書いたり議論したりする場を提供してほしい。
- ・実際にやってみた時の問題点をあげて欲しかった。
- ・学生からみたTAの効果や、学生からのTAにもっとこういう役割を果たしてほしいなどの意見があれば知りたい。

< TA スキルアップセッション >

2021年10月12日(火) 16:30 ~ 18:00

1. 趣旨

STA 及び TA (以下「TA 等」という) が、業務に必要な基礎知識や心得を学び、TA 等同士が情報共有できる機会とするとともに、TA 等自身の教育指導力の向上と、モチベーションを高めることを目的とし、開催した。

2. 概要

[開催日時・実施方法・参加人数]

- ・日時 2021年10月12日(火) 16:30 ~ 18:00
- ・実施方法 Zoom によるオンライン開催
- ・参加人数 3名

[プログラム]

- (1) アイスブレイク、セッションの概要説明
- (2) TA 体験談に基づく課題解決のディスカッション、発表、解説、まとめ
- (3) ケーススタディに基づく課題解決のディスカッション、発表、解説、まとめ
(大学教育センター 松田 岳士 教授)

※実際の授業で発生し得る問題を TA 体験談及びケーススタディの動画を通じて確認した。参加学生はそれぞれの課題について、Zoom によりグループで議論をし、解決策を発表した。

3. 研修の満足度

参加者3名全員からアンケートの回答を得た。全員から、このセッションで得た内容を実践する自信がついたと感じている旨の回答があった。

また、個別の感想として、「TA が不安に思っていることを共有し、それについてどう解決していくかをグループや複数の先輩 TA との対談、相談を通して解を見つける機会が欲しい」との声があった。

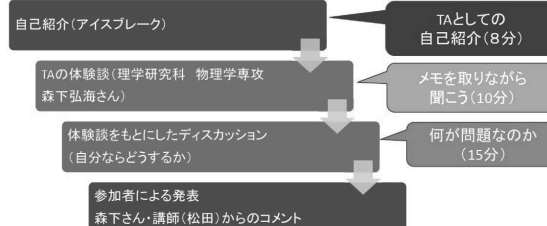
4. セッション資料

TA: 4つの存在理由・5つの役割

- 大学によっては、TAの代わりに非常勤講師を雇用している(コーチと呼んでいる)
- なぜ都立大では大学院生をTAに任じているのか?

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 授業をスムーズに進行させる | 1) アシスタント: 教員の補助者 |
| 2. 教員とは異なる教育効果 | 2) コミュニケーター: 授業の潤滑油 |
| 3. 授業改善に役立つ | 3) メンター: よき先輩 |
| 4. 自分自身も学び、成長する | 4) アセッサー: 授業改善者 |
| | 5) ラーナー: 学習者 |

セッションの流れ(前半)



達成目標

- 知識: TAの必要性和役割を、教員の役割と比べながら説明できるようになる
- スキル: 実際に発生する可能性のあるトラブルに対応するための基本スキルを実践できるようになる
- ネットワーキング: TAの間で相談できる関係を築く